

《履修上の留意事項》言語聴覚士国家試験や卒業試験に出題される内容を多く学修するので、選択科目であるが出来る限り履修すること。

《担当者名》福田真二 fukuda@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

音韻論、形態論、意味論、統語論の基本概念を応用しながら、日本語の特徴を体系的に学習する。

【学修目標】

【一般目標】

日本語の特徴を深く理解することによって、言語聴覚士として言語発達障害児・言語障害者の日本語の言語データを言語学的な視点から科学的に分析できる能力を身に付ける。

【行動目標】

1. 日本語動詞の活用時にみられる様々な音韻規則について説明できる。
2. 言語学的な特徴を基に様々な日本語の合成動詞と複合動詞を分類することができる。
3. 単文構造と複文構造の違いを理解し、複文構造を持つ日本語文の統語構造を表記できる。
4. 日本語における自他交替動詞の形態的・意味的・統語的特性について説明できる。
5. 日本語における格認可(格付与・格与値)の仕組みについて説明できる。
6. 名詞句の移動の基礎概念を理解し、かきまぜ文と話題化構文の派生過程を説明できる。
7. 日本語の表記の特徴を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	ガイダンス	科目の概要、学修目標、講義日程、学修内容、評価方法、課題、推薦図書、学修の準備、オフィスアワーの活用法を理解する。	福田真二
2) 3	音韻論	日本語動詞の活用と音の変化 母音語幹動詞と子音語幹動詞 子音の削除と母音の挿入 音便：イ音便/促音便/撥音便	福田真二
4) 5	形態論	膠着言語の特徴：日本語の合成動詞と複合動詞 連濁	福田真二
6) 7	統語論	単文構造と複文構造 埋め込み構造：関係節文/使役文/間接受動文	福田真二
8) 9	形態論	日本語の自他交替動詞の形態的・意味的・統語的特徴	福田真二
10) 12	統語論	日本語の格配置：状態述語と主格目的語/例外的格付与/多重主語文	福田真二
13) 14	統語論	名詞句の移動：かきまぜ文/話題化構文	福田真二
15	表記	日本語の表記：ひらがな/カタカナ/漢字 表音性と表意性	福田真二

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題（学期末に提出） 100%

【教科書】

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

【参考書】

長谷川信子 著 「生成日本語学入門」 大修館書店 1999年
金水敏 編著 「よくわかる日本語学」 ミネルヴァ書房 2024年
益岡隆志 編著 「はじめて学ぶ日本語学：ことばの奥深さを知る15章」 ミネルヴァ書房 2011年
庵功男 著 「新しい日本語学入門 第2版」 スリーエーネットワーク 2012年
今泉敏 他 編 「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学 第2版」 医学書院 2020年
岩田一成 他 編 「言語学・言語発達学」 メディカルビュー社 2022年
水谷修 他 編 「新版日本語教育事典」 大修館書店 2005年

【備考】

- ・授業に関する連絡は、manabaを使用します。
- ・課題の提示・回収は、manabaを利用します。

【学修の準備】

予習は、指定された読書課題をして、理解できない部分をチェックしておくこと。また適宜課題を課するので、講義までに必ず済ませること。（80分）

復習は、講義の学習内容をまとめた勉強ノートを作成すること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。